

こころ医療福祉専門学校佐世保校

令和5年度第1回教育課程編成委員会議事録

1 日時 令和5年9月10日（日）10:00～10:55

2 場所 こころ医療福祉専門学校佐世保校 5階 503教室

3 委員 出席：高橋 賢一郎（長崎県柔道整復師会）

上田 陽介（純心整骨院）

中野 仁、久野貴史、池田智恵

（敬称略）

4 主な内容

（1）開会のことば（司会 中野）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

（2）教育課程編成委員会

ア 中野校長が9月1日に上田先生、9月5日に高橋先生を訪ね、あらかじめ意見交換、情報交換を含めて分科会を行い事前調査票を交付。

イ 提出された事前調査票の回答と議事録に基づいて進行。

a カリキュラム変更について

（中野）平成29～平成30年度に改正して作成したカリキュラムがそれぞれの学年に相当であるかどうか改めて教科書と照らし合わせてみたところ内容的に1年生では難しいのではないかと、国家試験前に社会に出る前にしっかりと教育すべき内容ではないかと考えた。

科目が増え、授業時間も2750時間以上、単位も99単位以上と大幅に増加している為、各学年に対しての指導内容、学習の進行状況を考えカリキュラムの改正を行いたいと医療政策課に打診している。令和4年の国家試験から出題基準が改正されているので、授業内容も改変している。

（高橋）新設された「医療コミュニケーション」は患者と向き合った際、話す事、聞く事、患者目線に立ち不安をくみ取り、親身になる事が出来るようになる為、大変重要な科目である。

「情報リテラシー」は、あふれる情報をどのように自分で処理するか、「医用英語」は、外国人との会話が少しでも出来ることで外国人も安心して施術を受けることができるのではないかとという取り組みとなっている。

「解剖学Ⅲ」大変重要な科目。単位が増えたことは大変良いことである。

「高齢者の生理学的特徴・変化」「競技者の生理学的特徴・変化」についても深く理解することは大変有意義。学んでいく中で、介護の機能訓練、指導や教員やスポーツトレーナーにも影響を受けてくるのではないか。

「リハビリテーション医学」は2単位が「Ⅰ」「Ⅱ」で3単位となっている。患者さんの日常生活動作の回復を図る施術の中で、重要なポイントであり、仕事や趣味、スポーツへの復帰を促す大変重要な科目である。

(上田) 「高齢者の生理学的特徴・変化」は実際に見てみると外傷だけではなく、内因的なものだったり、末梢神経の痛みや糖尿があったりと自分が思ったことと全然違ったりするので、学校では思ったこととは全然違うことがあるということを考えに入れておくという勉強が必要である。

(中野) 「リハビリテーション」は今までの内容が理学療法に沿ったものだったのが、柔道整復師からの目線としたリハビリテーションとした。

ガイドラインの改正で専科教員が担当できる教科を増加するという一方で、「解剖学」の運動機能授業、それから「リハビリテーション」も高齢者に関する内容については柔道整復師としての専科教員が授業できることになっており、国家試験の出題に沿った内容の勉強が必要な為、専科教員が担当する。

「基礎柔道整復学Ⅵ」外傷の保存療法の経過及び治癒の判定もガイドラインに強化された内容の科目で新設されている。

(高橋) 昨年、Ⅴまでだった「基礎柔道整復学Ⅵ」が新設されたのは柔道整復師になるための必要な基礎知識をより深く学ぶ上で大変重要である。

一番重要なことは、「職業倫理」と「社会保障制度」である。柔道整復師としての倫理、医療社会人としての倫理、とても難しいことだが、人間として成長していく中で出来上がってくるもの。基礎をしっかりと植え付けてほしい。

(上田) カリキュラムが変わって内部実習的なものは何か変わるのか。

(中野) 実技の授業は今まで少なかったので増やしている。

基礎的なことは学校で、臨床的なことは臨床実習を通じて、二段構えという体制で考えている。

新卒の学生は高校時代に勉強の習慣がついていないと音を上げてしまうので授業で教わっていることを身をもって体験して関連性をつなげる実技の時間を増やさなければいけないと考えている。

(上田) 実技の時間が増えることは大変有意義である。

時間が増えることで知識は入ってくるが、実習で、初診の間診を取ったりしてみると分からないことがたくさん出てくる。

分からないことを言い合うのは国家試験とは関係ないかも知れないが、実際に勤務したときに役立つと考える。

b 臨床実習施設の拡大について

(高橋) 実習時間が増える中において大変有意義である。

施設の中身については、よく検討し、選ぶべきである。

(中野) 臨床実習施設が佐世保では足りないので増やしていきたい。

個人経営でされている先生方には非常にご負担なのでどのようにしていけばいいか考えていただきたい。

適切な業務をされている施設に受け入れていただきたい。

(上田) 臨床実習施設は不足しているが、私は一人でやっているの、どういう風に行動する必要があるのか思案する。

(中野) 臨床実習指導者講習会を受講してもらう際に具体的な事例を出して伝えたり、時間を午前や午後だけにしたりなど施設のご都合で柔軟な対応をしていかないと大勢スタッフがいるところだけになってしまって学生に色々な所を見て様々な体験をさせるという意図が達成できない。

20～30施設を目標としている。

技術的なことよりも地元の先生たちと接して印象をつけていただくと県内への就職の一助にもなるかと考えている。

良い先生だった、教わって良かったという意見が学生から出るようなところで預かってもらいたい。

成功体験や失敗談を実際に話してもらうことで現実的なイメージができてくるので臨床実習に絡めてお願いしたい。

(久野) 学生の持っているイメージと実際の乖離があり、その間を埋める必要がある。

c 学生募集について

(高橋) 柔道整復師は人に役に立つ素晴らしい仕事であると知ってもらいたい。

地元の高校生が柔道整復師になってみたい、と思える話をする。

オープンキャンパスに来てもらい、国試の合格率や就職支援などがしっかりとあるなど、学校の強みを伝える。

高校との関係が重要。卒業生が立派に開業していることや勤務していることを学校にも生徒にも伝えることが大事。

卒業生が母校へ行ったりオープンキャンパスで話しをしたりする。

パンフレットを駅あるいは商業施設におく。

学生の情報収集のwebでの方法は欠かせない。

(中野) 学校側でも現在も改善しながら広報活動を行っている。

(上田) このことについては毎回、Y o u T u b e の動画やハローワークを提案しているが成果はどうなのか。

(中野) 今年も垂れ幕やラッピングバス、各方面にポスターのお願いをして視覚に訴えた取り組みを行っている。

高橋先生が言われた高校との関係も強化していく。

(上田) 社会人からなりたいという声を聞くが、お金がどのくらいかかるのか、どのくらい勉強すればいいのか、どんな環境なのかという不安を聞くので解消するために社会人用のパンフレットを作ると良いのではないか。

(中野) パンフレット作成については検討したい。

(3) 教育課程編成委員会の閉会

(中野) 第2回は来年の2月頃を予定している。

今回のご意見を議事録によって内容を確認し、取組の変更、報告をする。